



「投資信託の販売会社における 比較可能な共通KPI」について

2020年6月30日

確かな“きずな”を、未来へ。
株式会社京葉銀行

「投資信託の販売会社における比較可能な共通KPI」について

- ◆京葉銀行は、「お客さま本位の業務運営に関する取組方針」を策定・公表し、全役職員が本方針に則った業務運営に取り組むとともに、その取組状況を継続的に公表しております。
- ◆お客さま本位の良質な金融商品・サービスを選択する上で比較可能な統一的指標（以下、「共通KPI」）の2020年3月末の状況を公表いたします。

「共通KPI」の内容

① 運用損益別顧客比率

- ・投資信託を保有しているお客さまについて、基準日時点の保有投資信託に係る購入時以降の累積の運用損益（手数料控除後）を算出し、運用損益別にお客さまの比率を示した指標です。
- ・個々のお客さまが保有している投資信託について、基準日時点の損益状況を見ることができます。

② 投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン

- ・設定後5年以上の投資信託の預かり残高上位20銘柄について、銘柄毎および預り残高加重平均のコストとリターンの関係を示した指標です。
- ・中長期的に、どのようなリターン実績を持つ商品をお客さまに多く提供してきたかを見ることができます。

③ 投資信託預り残高上位20銘柄のリスク・リターン

- ・設定後5年以上の投資信託の預かり残高上位20銘柄について、銘柄毎および預り残高加重平均のリスクとリターンの関係を示した指標です。
- ・中長期的に、どのようなリターン実績を持つ商品をお客さまに多く提供してきたかを見ることができます。

「運用損益別顧客比率【共通KPI】」について

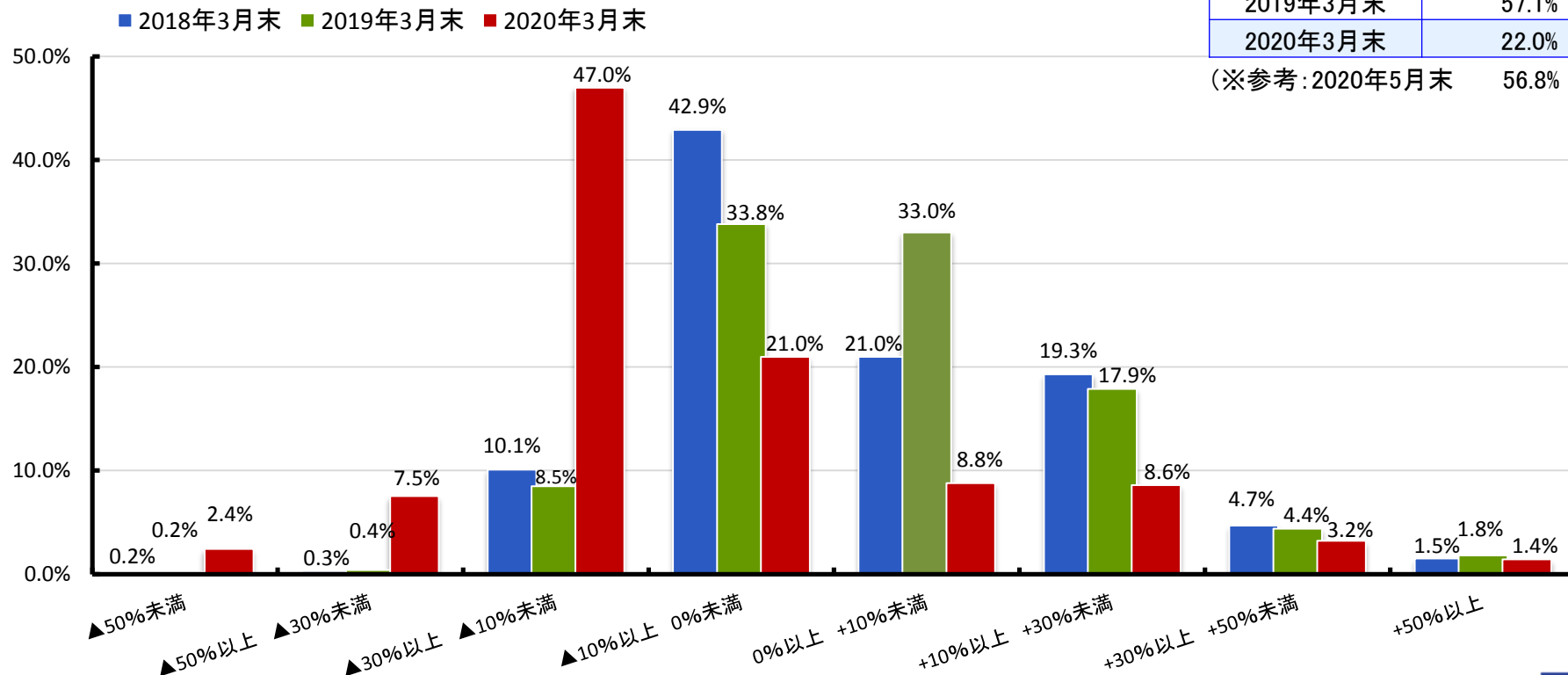
- ◆ 新型コロナウイルスの感染拡大は世界経済に大きなインパクトを与えており、2020年3月末時点の運用損益がプラスのお客さまの割合は22%となっております。
 プラスのお客さまの平均保有期間は8.25年、長期間保有することが運用成果を高める結果となる傾向にあります。
 なお、2020年5月末時点では、マーケットの回復により運用損益がプラスのお客さまの割合は 56.8%となっております。

投資信託運用損益別顧客比率【共通KPI】

運用損益がプラスのお客さまの割合

2018年3月末	46.5%
2019年3月末	57.1%
2020年3月末	22.0%

(※参考:2020年5月末 56.8%)



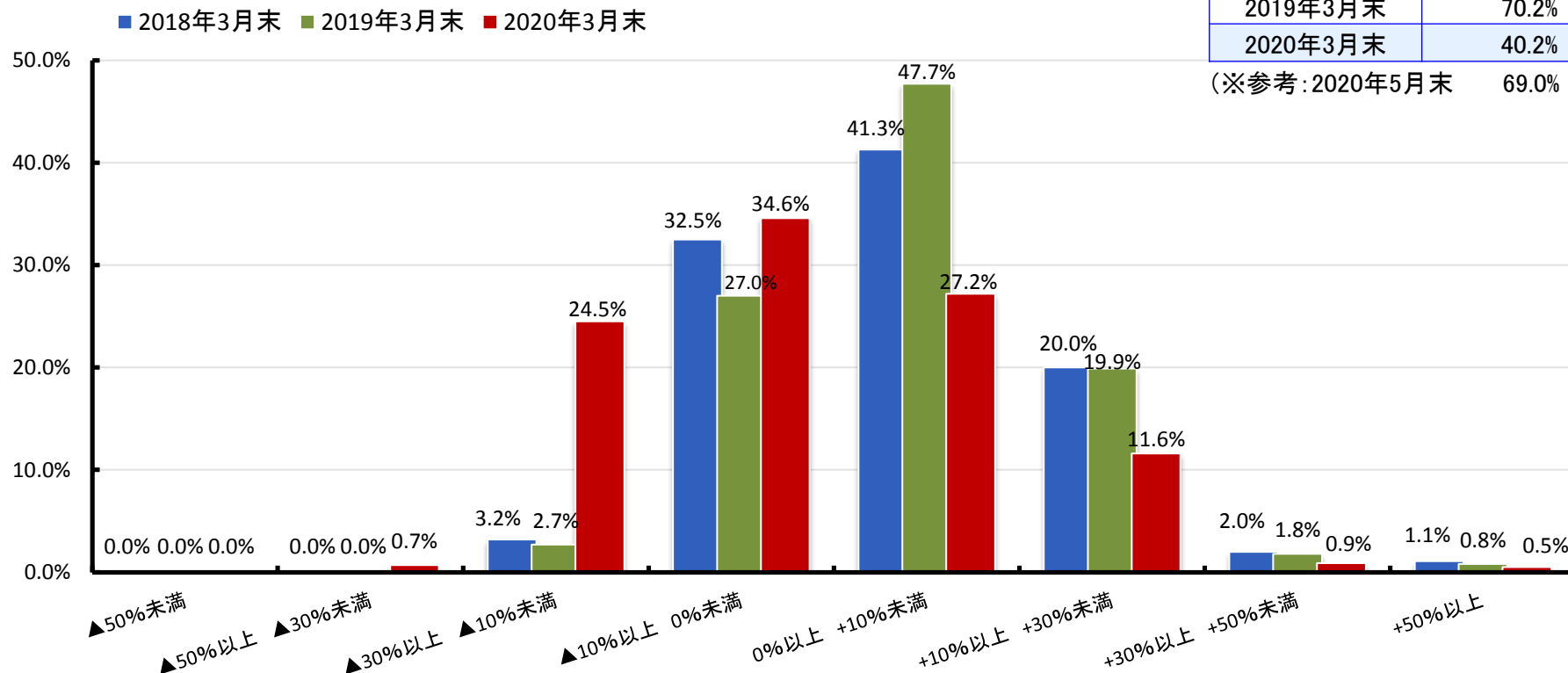
※3月末時点で投資信託残高を保有している個人のお客さまの比率。運用損益比率計算上の分母は「時価評価額」としております。

<ご参考> 「運用損益別顧客比率(実現損益を含む)」

◆ 2020年3月末時点で、過去に保有していた投資信託の実現損益を含めると約 40%のお客さまの運用損益がプラスとなっております。

なお、2020年5月末時点では、マーケットの回復により運用損益がプラスのお客さまの割合は 69.0%となっております。

実現損益含む投資信託運用損益別顧客比率



※3月末時点で投資信託残高を保有している個人のお客さまの実現損益を含めた比率。計算上の分母は「累積投資金額」としております。

※1998年12月以降に売却または償還となった投資信託の実現損益を算出。

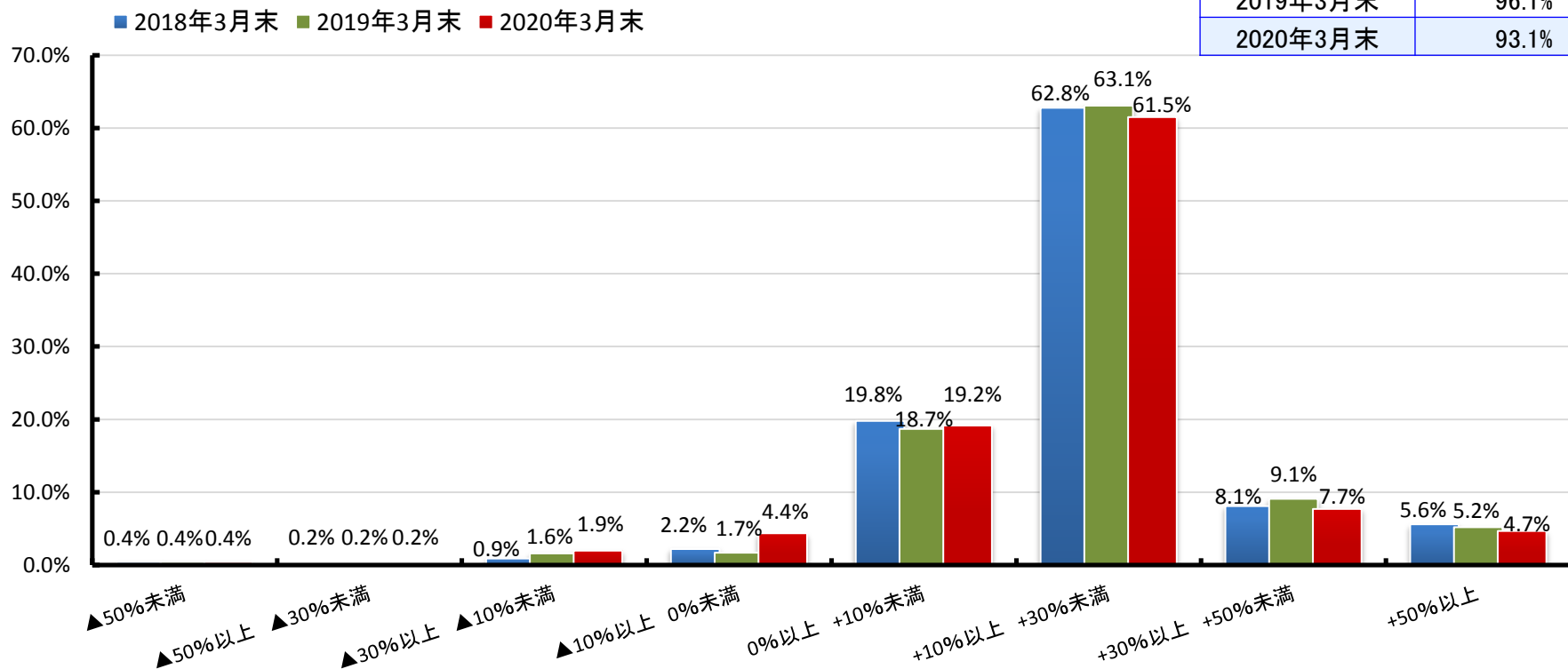
<ご参考> 「運用損益別顧客比率(保有期間10年超)」

- ◆ 当行で投資信託を保有いただいたお客さまのうち、保有期間が10年超の投資信託のみを対象に運用損益を算出した場合、約 93%のお客さまがプラスとなっております。
長期間保有することで、運用リスク・コストの低減、複利効果の享受など運用成果を高める大きなメリットとなる可能性があります。

投資信託運用損益別顧客比率(保有期間10年超の投資信託のみ)

運用損益がプラスのお客さまの割合

2018年3月末	96.3%
2019年3月末	96.1%
2020年3月末	93.1%



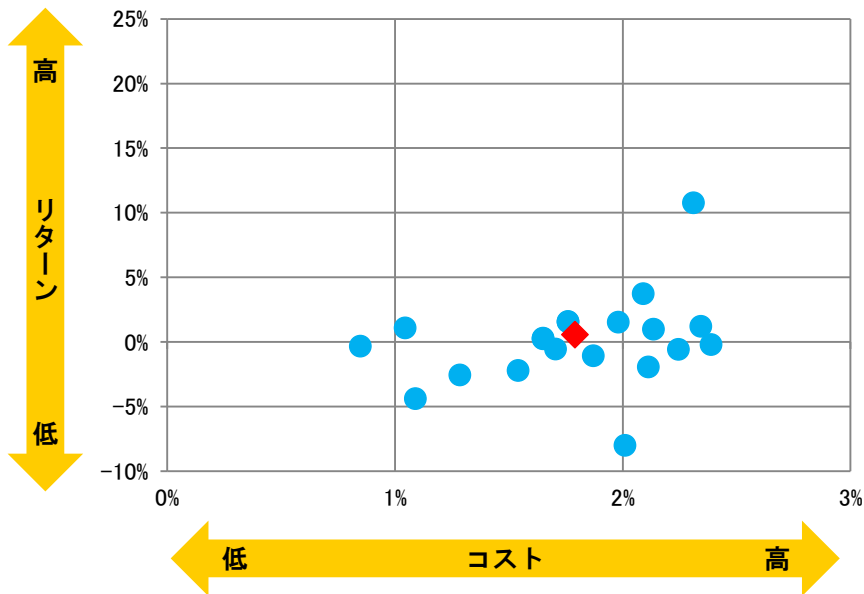
※1998年12月以降、お客さまが当行で保有もしくは保有していた投資信託のうち、保有期間10年超の投資信託のみを対象として運用損益を算出。

「投資信託預り残高上位20銘柄のコスト・リターン/リスク・リターン」

【2020年3月末】

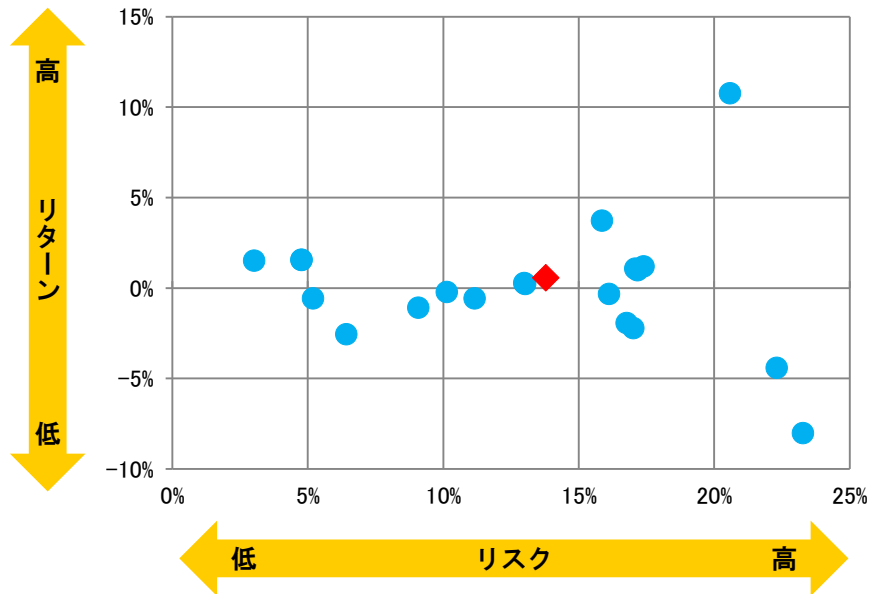
◆2020年3月末時点においては、新型コロナウイルスの感染拡大による影響を受け、残高上位20商品のリターン（加重平均ベース）は大きく低下しました。なお、コストおよびリスクに大きな変化はありません。

預り残高上位20銘柄のコスト・リターン 【共通KPI】



残高加重平均値 ◆	コスト	リターン
	1.79%	0.57%

預り残高上位20銘柄のリスク・リターン 【共通KPI】

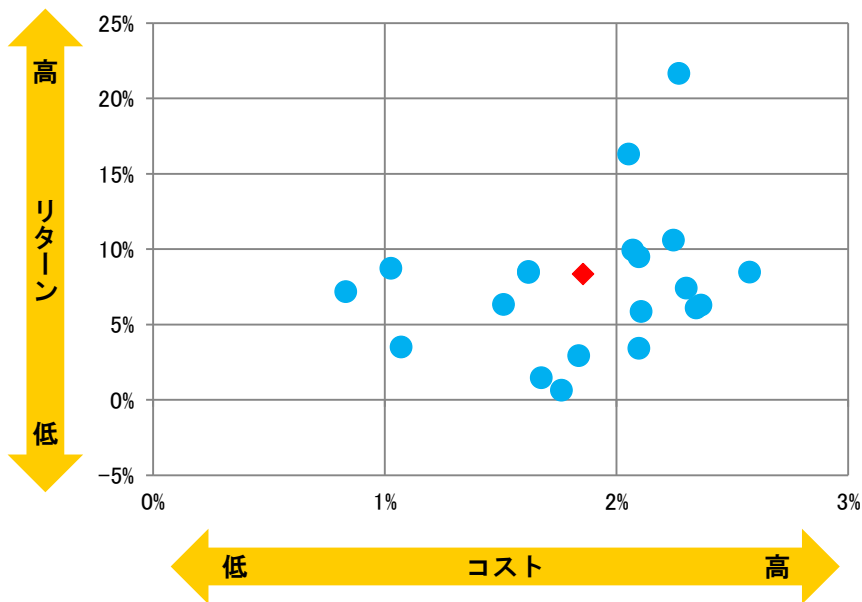


残高加重平均値 ◆	リスク	リターン
	13.78%	0.57%

「リターン」：過去5年間のトータルリターン(年率換算)・・・投資の結果得られる収益のこと
 「リスク」：過去5年間の月次リターンの標準偏差(年率換算)・・・リターンのふれ幅の大きさのこと
 「コスト」：販売手数料の1/5と信託報酬率の合計値
 ※一般的に大きなリターンが期待できる商品は、その分リスクも大きくなります。

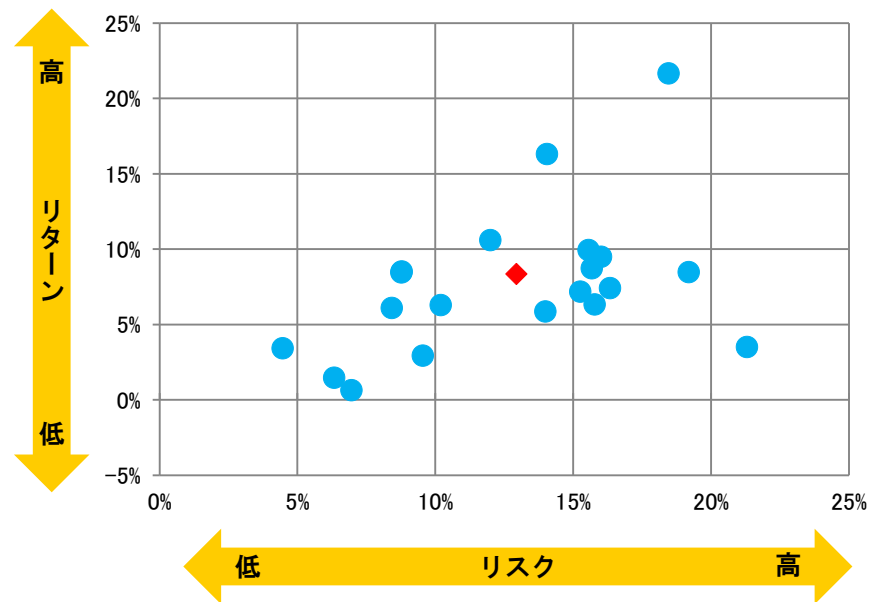
【2019年3月末】

預り残高上位20銘柄のコスト・リターン 【共通KPI】



残高加重平均値 ◆	コスト	リターン
	1.86%	8.36%

預り残高上位20銘柄のリスク・リターン 【共通KPI】

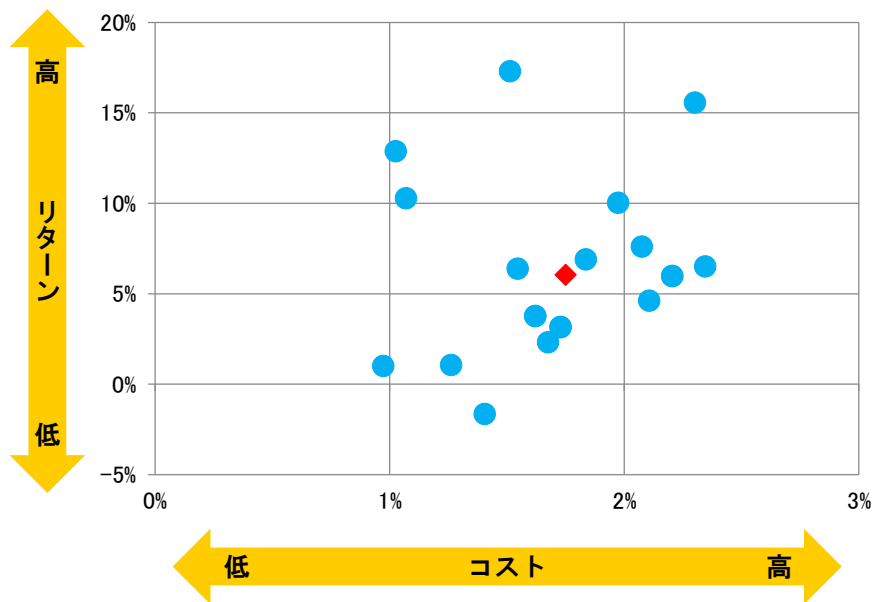


残高加重平均値 ◆	リスク	リターン
	12.94%	8.36%

「リターン」：過去5年間のトータルリターン(年率換算)・・・投資の結果得られる収益のこと
 「リスク」：過去5年間の月次リターンの標準偏差(年率換算)・・・リターンのぶれ幅の大きさのこと
 「コスト」：販売手数料の1/5と信託報酬率の合計値
 ※一般的に大きなリターンが期待できる商品は、その分リスクも大きくなります。

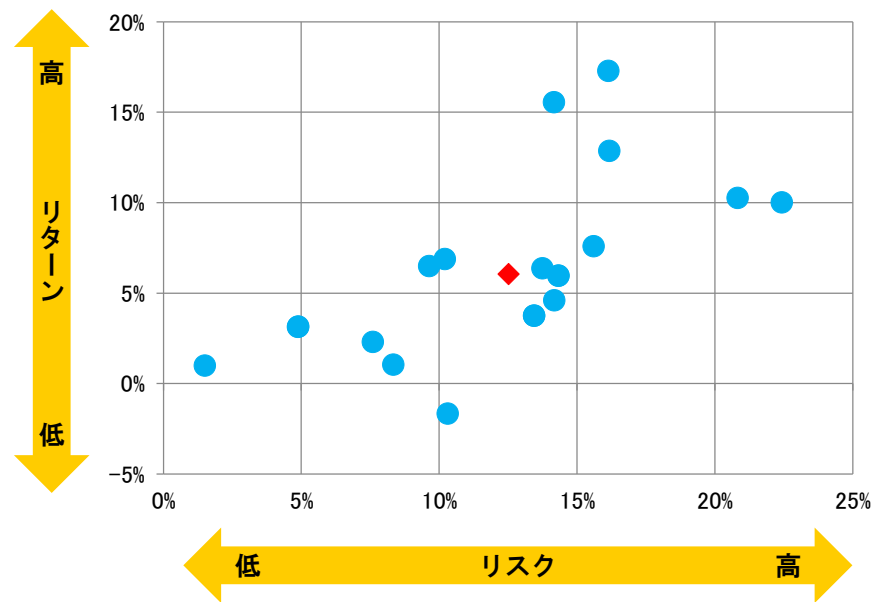
【2018年3月末】

預り残高上位20銘柄のコスト・リターン 【共通KPI】



残高加重平均値 ◆	コスト	リターン
	1.75%	6.05%

預り残高上位20銘柄のリスク・リターン 【共通KPI】



残高加重平均値 ◆	リスク	リターン
	12.52%	6.05%

「リターン」：過去5年間のトータルリターン(年率換算)・・・投資の結果得られる収益のこと
 「リスク」：過去5年間の月次リターンの標準偏差(年率換算)・・・リターンのぶれ幅の大きさのこと
 「コスト」：販売手数料の1/5と信託報酬率の合計値
 ※一般的に大きなリターンが期待できる商品は、その分リスクも大きくなります。

「投資信託の預り残高上位20銘柄」

順位	ファンド名	順位	ファンド名
1	ダイワ・US－REIT・オープン(毎月決算型)Bコース (為替ヘッジなし)	11	三井住友・げんきシニアライフ・オープン
2	MHAM株式インデックスファンド225	12	LM・グローバル・プラス(毎月分配型)
3	MHAM新興成長株オープン	13	SMTJPX日経インデックス400・オープン
4	野村インド債券ファンド(毎月分配型)	14	ニッセイJPX日経400アクティブファンド
5	グローバル・ソブリン・オープン(毎月決算型)	15	エマージング・ソブリン・オープン(毎月決算型)
6	ファイン・ブレンド(毎月分配型)	16	MHAMJ－REITアクティブオープン(年1回決算コース)
7	MHAMJ－REITアクティブオープン「毎月決算コース」	17	高金利先進国債券オープン(毎月分配型)
8	トヨタグループ株式ファンド	18	ファイン・ブレンド(資産成長型)
9	優良日本株ファンド	19	イーストスプリング・インド株式オープン
10	投資のソムリエ	20	フィデリティ・日本成長株・ファンド

※2020年3月末時点で設定期間5年以上のファンドのみに限った投資信託の預り残高上位20銘柄。

(2020年3月31日現在)

※上記数値等はあくまで過去の実績であり、将来の運用損益をお約束するものではありません。